

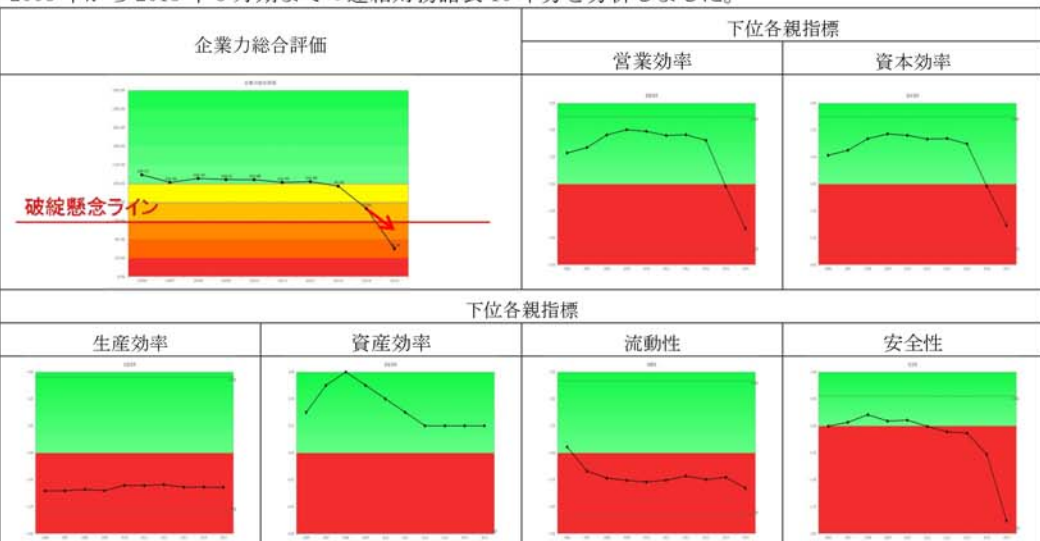


経営分析ニュース

第117号
2015年8月20日発行
毎月20日発行

今回は、ワタミ株式会社を分析しました。昨年11月に続き今年5月にも不採算店の大量閉鎖を発表しました。外食・介護・宅食・農業・環境事業に取り組んできたワタミ(株)に何が起きているのでしょうか。

2006年から2015年3月期までの連結財務諸表10年分を分析しました。



企業力総合評価は、109 → 101 → 105 → 104 → 103 → 101 → 101 → 97 → 73 → 30 と推移しています。もともと青領域ぎりぎり、長期的に経営は良くなかったのですが、2014年急激に悪化し、悪化成り行き倍率1年（同じトレンドで悪化すると後1年で破綻懸念へ突入する）になり、実際に2015年に破綻懸念領域へ入ってしまいました。

営業効率から安全性まで、ほとんどの指標が赤信号領域へ悪化していたり、はまったままだったりの状態なのに、資産効率は悪化してきたとは言え青信号領域に留まっています。ここにワタミ(株)の経営を読み解くヒントがあります。

営業効率（儲かるか）・資本効率（株主評価）は2014年赤青ゼロ、2015年は完全に赤信号領域に突入し、12,857百万円の当期損失を計上しました。

	(単位：百万円)									
	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
売上高合計	82,672	98,411	104,231	111,291	115,420	123,877	140,197	157,765	163,155	155,310
当期純利益	1,073	1,602	3,923	2,564	3,259	2,829	3,421	3,541	▲4,911	▲12,857
売上高当期利益率	1.30%	1.63%	3.76%	2.30%	2.82%	2.28%	2.44%	2.24%	▲3.01%	▲8.28%

生産効率（人の利用度）は10年間ずっと赤信号領域です。生産効率の主要指標は1人当たり売上高で、2015年7,245千円でした。一人当たり売上高が低いと、その範囲でしか給料が払えませんから、労働条件が厳しくなります。

資産効率（資産の利用度）は、資産を使っていかに効率的に売上を上げたかの指標です。売上高を上げようとすれば、資産も増えてしまいます。お店や工場などを購入するからです。売上高以上に資産が増加しているため、資産効率が悪化しています。ただ、売上高が増加しているため赤信号領域までは落ちていません。

流動性（短期資金繰り）は、9年連続赤信号領域です。

安全性（長期資金繰り）は、2015年ほぼ底値になりました。安全性は主に資産合計と純資産合計の関係です。自己資本比率＝純資産合計÷資産合計×100で、利益を出して積み上げ、純資産合計の方が資産合計より増えていけば、安全性は良くなります。利益以外には増資をすれば改善しますが、過去10年ワタミ(株)は増資していません。総資産合計が大きくなる速度に利益が追いつかず、それどころか2014年2015年は赤字で、増資もしないため、純資産合計と総資産合計のバランスが崩れたようです。

以上のことから、売上高至上主義の経営が分析によって見えました。以前創業者の渡邊美樹氏が「売上高1兆円を目指す。」と宣言されていました。売上高は企業力が悪化した2014年の163,155百万円がピークでした。

	(単位：百万円)									
	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
純資産合計	19,008	20,318	24,001	22,794	25,339	27,332	29,351	32,045	22,767	10,006
固定資産合計	46,059	49,561	48,920	57,199	62,850	77,979	92,263	105,347	108,213	111,438
固定比率	242.31%	243.93%	203.82%	250.94%	248.04%	285.30%	314.34%	328.75%	475.31%	1113.71%
固定負債合計	29,722	24,724	17,048	24,559	25,287	39,267	52,823	59,658	73,664	77,137
固定長期適合比率	94.52%	110.03%	119.17%	120.79%	124.15%	117.09%	112.28%	114.88%	112.22%	127.88%
資産合計	60,847	62,991	61,301	70,228	77,794	93,532	111,424	124,678	127,909	130,903
自己資本比率	31.24%	32.26%	39.15%	32.46%	32.57%	29.22%	26.34%	25.70%	17.80%	7.64%

固定比率＝固定資産÷純資産、固定長期適合比率＝固定資産÷(固定負債＋純資産)です。

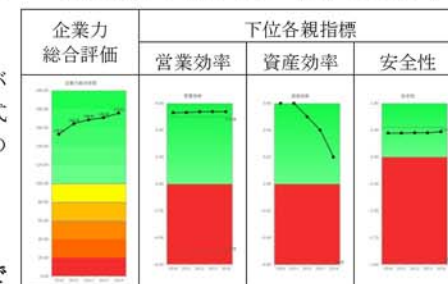
売上が上がると総資産が増えますが、その内訳である固定資産も当然増えます。固定比率は2006年から2015年の間に242.31%→1,113.71%ですから、純資産の増加を遥かにしのぐ勢いで固定資産が増加しています。

固定長期適合比率は同じく94.52%→127.88%で、固定比率ほど増加していません。これは、分母の固定負債が増加しているから、つまり長期借入金、社債、リース債務などの増加です。利益で賄えず、増資もしないので、借金で賄っている事がわかります。

同じ売上高を増加させる会社でも、十分な利益と増資のバランスをとって成長しているアークランドサービス株式会社（とんかつ「かつや」）は右グラフです。資産効率の形状は同じですが、企業力は改善しています。

まとめ

売上高アップはわかりやすい目標であり、価値あることですが、経営者は、売上と資産、資産と純資産の関係を理解してバランスを取らなければいけません。



編集後記 そうはいつでも、売上が伸びないと話にならない・・・というのにも確かにあります。でも、売上がすべてではないのです。

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-9-21 SARUKIビル4F 猿木真紀子税理士事務所

Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp